

メカニズム解明に必要なこと

- ① 流入負荷に関すること
- 流入負荷量の正確な把握。
 - 測定結果による収支全般の把握。
- ② 湖底と湖水の物質収支に関すること
- 底質の現状、影響等の把握。
- ③ その他の物質収支に関すること
- 上昇傾向である溶存態CODと植物プランクトン種の関係の把握。
 - 難分解性有機物の把握。
 - 塩分成層による酸素の挙動、それに伴う栄養塩の溶出の把握。

シミュレーションモデルに関すること

- メカニズム解明のツールとしてモデルを活用

その他

- 湖岸帯生態系の構造と機能の関係の把握
- 流入地下水の把握
- 施策効果が定量化されていない施策の定量化 など

共通事項

- 既存データ、知見について他機関のものも含めて整理、解析

調査事業 等

A. 斐伊川365日調査【①】

- ・現地調査は終了(H22～H23)。
- ・流量確定後、負荷量を算出し、原単位法による負荷量と比較する予定。
- ・LQ式の複数化を検討する予定。

B. 湖心高頻度調査【②】

- ・現地調査は終了(H22～H23)。
- ・流量確定後、底質から溶出したりん酸の挙動(流出・再沈降)を定量する予定。

C. 山林系の原単位の見直し【①】

- ・過去の調査結果を再検討(H22)。

D. シミュレーションモデルの検証・構築

- ・保全計画策定に用いたモデルのパラメータ等の確認(H22～H23)。
- ・中田委員から提供されたモデルについて、データ入力等を現在作業中(H23～H25)。

E. 植物プランクトンの存在比調査【③】

- ・現在調査中(H22～H23)。

F. シネコキスティスの遺伝子解析【③】

- ・現在調査中(H22～H24)。

G. 植物プランクトンの種による溶存態CODへの影響調査【③】

- ・現在調査中(H23～H24)。

H. 難分解性有機物に関する調査【③】

- ・現在調査中(H23～H24)。

I. 塩分成層と貧酸素濃度の変動に関する研究【③】

- ・現在調査中(H23～H24)。

J. 底質に関する調査【②】

- ・現在調査中(H24～H25)。

- その他
-